

がんばる企業のご紹介

一宮市で、手作り惣菜の宅配事業を行う「HAPPY-Weekday」。

『共働き世帯の役に立ちたい』という思いから創業を決意した代表の岩道 汐璃さんに、自身の経験も交えながらお話していただきました。

Company Data

代表 岩道 汐璃

業種 惣菜製造・宅配サービス

住所 愛知県一宮市

ホームページ <https://happy-weekday.jp>



「心と時間の余裕」をお届けする手作り惣菜

当社は、「心と時間の余裕」をお届けすることを経営理念として、手作り惣菜の宅配事業を行っています。現在は、一宮市を中心に50世帯ほどにご利用いただいております。計11名のスタッフで調理・宅配を分担しています。ライフスタイルに合わせた様々なプランをご用意しており、中でも毎週主菜3品・副菜6品を4人分お届けするプランが人気です。メニューは、約500種類の中から旬や全体のバランスを考慮して組み合わせしており、週替わりで変更しています。



また、私自身を含めて、子育てをしている主婦のスタッフが多いことも当社の特徴です。

家事・育児と仕事の両立、自らの経験が創業のきっかけに

料理が好きで大学時代に栄養士の資格を取得しましたが、当時は仕事にしようとは考えていませんでした。転機となったのは、子育て中に体調を崩してしまったことです。

家事・育児と仕事の両立は想像以上に難しく、特に炊事の時間がなかなか取れず、偏った食事ばかりとなり体調を崩し、食の大切さを実感しました。そんな時に、「栄養バランスの

良いもの、子供が毎日食べても安心なものを宅配してくれるサービス」があったらいいなど考えたのが創業のきっかけです。そして、「同じ悩みを抱えている共働き世帯の役に立ちたい」と思い、創業を目指すことにしました。どのような形にしたら子育てと仕事の両立が可能か考えることから始め、家族や職場にも相談しました。

また、創業についての知識を学ぶため、一宮商工会議所での創業者向けセミナーに参加したほか、食品を取り扱ううえで必要な手続きなどを、保健所に相談しました。

創業の準備の中で一番大変だったのは、創業計画を立てることです。見慣れない書類を完成させるのは大変でしたが、商工会議所に繰り返し相談して計画を作成し、令和元年6月にHAPPY-Weekdayを創業しました。

創業当初は、利用者のほとんどが働いていた会社の元同僚や知人でしたが、口コミが広がり、利用者が増えていきました。また、プレスリリースを作成したことで、テレビや新聞で取り上げられ、利用者の増加にも繋がりました。

令和3年には、より多くのかたに利用していただくため、調理スペースを拡大し、その際の資金調達に、愛知県信用保証協会を利用しました。創業資金は自己資金から捻出したため、金融機関から融資を受けるのは初めてでした。融資を受けることに不安はありましたが、公的機関である信用保証協会のサポートがあるというのは心強かったです。その後も、信用保証協会には経営について相談し、アドバイスを頂いています。

「家庭の味」を強みに、利用者増加へ

令和2年4月に緊急事態宣言が発令された際は、臨時休業を余儀なくされましたが、特に医療や生活インフラのお仕事をされているかたがたからご要望をいただき、スタッフ不在の中私一人で出来る範囲でのサービスを続けてきました。元々リピーターのかたが多く、現在は万全な対策のもと、通常営業をさせて頂いており、営業再開後も変わらず利用していただいています。

コロナ禍でテイクアウトに力を注ぐ飲食店が増えている状況にありますが、「栄養バランスの良い飽きない家庭の味」・「無添加の手作り」をお届けできることが当社の強みです。心をも満たす料理をお届けするため、スタッフに対しては惣菜づくりが「作業」にならないように、丁寧に心を込めて作ってほしい、ということを常に伝えています。

また、スタッフは主婦が多く、利用者の視点に近い意見を吸い上げられるという点も強みだと感じています。スタッフの意見から取り入れたメニューやプランも多く、今後もお客様やスタッフの意見を収集していきたいと考えています。

加えて、利用者を増やすための取組も行っています。Instagramでの情報発信のほか、令和4年12月から事業所近くの喫茶店の駐車場で、惣菜の販売を始めました。喫茶店の近くにある学童保育を利用されている保護者のかたにも「忙しいときに頼れる選択肢のひとつとして当社の存在を知ってほしい」と考えています。また、喫茶店のコーヒーも併せて販売

しており、地元のお店との相乗効果を目指しています。

楽しむために「日々挑戦」

私が経営にあたり大切にしているのは、「日々挑戦」することです。振り返ってみると、創業に向けて準備をしているときも、大変ながらも「挑戦できることが幸せなこと」と感じていました。これからも「HAPPYをお届け出来るように自らが困難をも楽しむこと」と「楽しむためにはどうしたら良いか」を意識して、日々挑戦を続けていきます。

今後も目標は変わらず、「心と時間の余裕をお届けできる」事業を行うことです。私自身の経験から、特に子育て世代に「心と時間の余裕をお届けしたい」という思いがあります。HAPPY-Weekday が、「心と時間の余裕」を手に入れるための選択肢の一つとなればうれしいです。

